

## History

1946年、無線機用の小型エンジンが人々の暮らしに役立つ道具に変わった。

困っている人を見たら放っておけない。

人を少しでも楽にする。

常に人間中心に、技術で人々の生活に役立ちたい。

こうして、数々のHondaパワープロダクツが生まれていった——。

黎明期

1950 – 1960年代

1960 – 1970年代

1970 – 1990年代

1990 – 2010年代

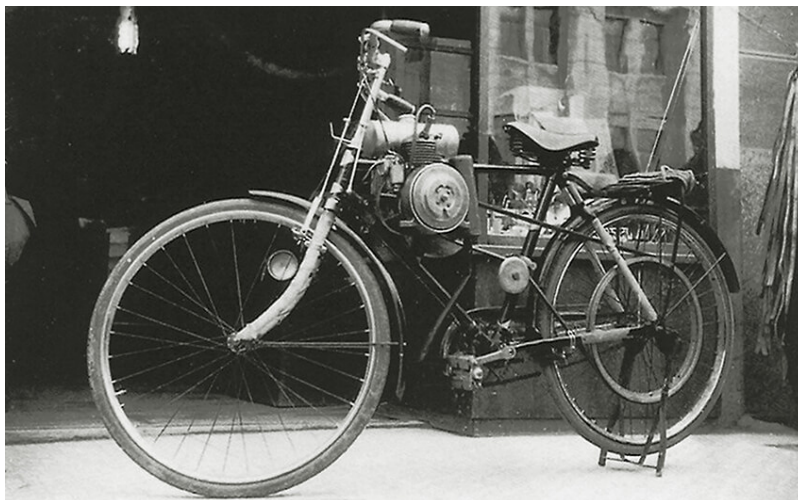
# Honda Power Products

**HONDA**

MENU

1945年、第二次世界大戦が終了。戦争の影響で日本国内では、全ての物資が決定的に不足していた。日々の生活をしのぐために人々が奔走する状況が続いていた。しかし、物資が不足する中での移動手段は、徒歩、自転車、列車に限られていた。特に当時の自転車は生活の足、仕事の足として貴重な存在だった。

Hondaの創業者・本田宗一郎は、1906年に静岡県磐田郡光明村（現 浜松市）で鍛冶職人の長男として生まれた。高等小学校の卒業間近の1922年、東京の自動車修理工場アート商会に就職、1928年にのれん分けを許されアート商会浜松支店を開業。その後アート商会浜松支店を弟子に譲り、ピストンリングを生産する東海精機重工業株式会社を設立、社長に就任したのは1936年であった。



自転車用補助エンジンを取り付けた自転車

終戦直後の1946年、“内燃機関及び、各種工作機械の製造並びに研究に従事する”ため『本田技術研究所』を立ち上げた。そして同じ年、旧陸軍が無線機の発電用として使っていた小型エンジンと偶然出会う。

宗一郎が「これを自転車用の補助動力にしよう」と思い付くのに時間はかからなかった。

# Honda Power Products

**HONDA**

MENU

ある日宗一郎は「こんなのができたから、お母さん、乗って走ってみろよ」と一台の試作車を家に持ってきた。夫人は人がいっぱい表通りを走るから、一番きれいなモンペをはいて乗った。Hondaの歴史で初めての女性テストライダーは夫人であった。

ひとしきり走って戻ると、一張羅のモンペは油でベッタリ汚れていた。汚れる原因は、キャブレターからの混合油の吹き返しであった。「これじゃあ駄目ですよ、お父さん。買ったお客様に叱られてしまいますよ」という夫人の意見を取り入れ、市販時にはきちんと改良されていた。

自転車用補助エンジンは、もっぱら口コミでたちまち大評判となった。うわさを聞きつけ名古屋、大阪、東京などの大都市から買い手が浜松にやってきた。しかし、無線機の発電用エンジンの在庫がなくなったことから、自ら自転車用補助エンジンの開発に取り組んだ。そして1947年、Honda最初のオリジナル製品である「ホンダA型」の販売を開始した。価格を抑えながら質の悪い燃料でも走るエンジンは多くの支持を得た。

# Honda Power Products

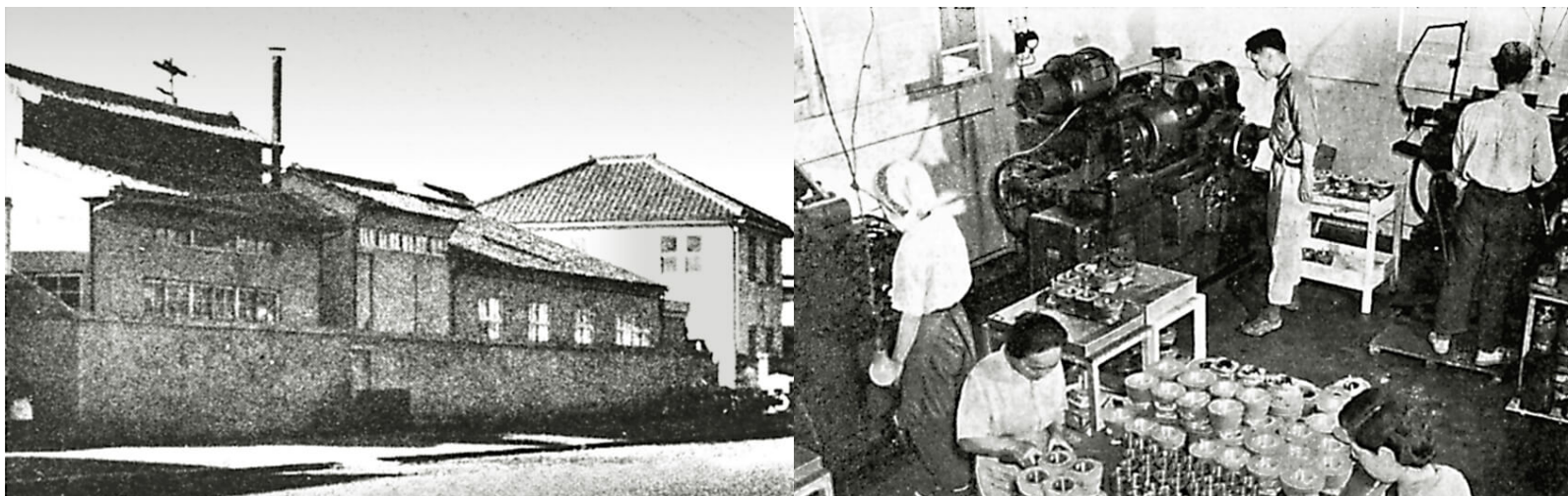
**HONDA**

MENU



自転車用補助エンジンやA型による遠乗り会も開催された

資本金100万円、従業員34名で、自転車用の補助エンジンを主な商品とし、浜松の小さな町工場として創業した。この会社こそ、現在のHondaである。



# Honda Power Products

**HONDA**

MENU

タンクに赤いカラーリングを施した「カブ号F型」は、デザインもフレッシュだった。



カブF型は一式を専用の箱にパッケージングして発送



カブF型はあらゆる人に親しまれた

エンジンを扱ったことのない自転車店でも取り付けが可能な「カブ号F型」は全国約13000軒の自転車店で販売され、日本中に普及した。

1951年、宗一郎は「造って喜び、売って喜び、買って喜ぶ」を「三つの喜び」として社報で発表、これは、今日に続くHondaの基本理念となっている。

困っている人を見たら放っておけない。人を少しでも楽にする。常に人間中心に、技術で人々の生活に役立ちたい。後に続々と誕生する、耕うん機、芝刈機や発電機、ポンプなどHondaのパワープロダクツ製品は、技術で

# Honda Power Products



MENU

1950 – 1960年代 ▶



## Honda Power Products

© Honda Motor Co., Ltd. and its subsidiaries and affiliates. All Rights Reserved.

# Honda Power Products



MENU